

**第2次匝瑳市総合計画中期基本計画策定
に係る団体懇談会**

協議報告書

令和5年3月

匝瑳市

目 次

団体懇談会 次第	1
団体懇談会協議報告書 第1分科会（健康・福祉・医療・介護）	3
団体懇談会協議報告書 第2分科会（産業・経済）	8
団体懇談会協議報告書 第3分科会（生活環境・都市建設・市民協働）	15
団体懇談会協議報告書 第4分科会（教育・交流・移住・定住）	23

団 体 懇 談 会 次 第

日 時 令和5年2月18日（土）

午後1時30分～午後3時30分

（全体会）午後1時30分～午後1時50分

（分科会）午後2時00分～午後3時30分

会 場

（全体会） 匠瑳市民ふれあいセンター 大ホール

（分科会） 第1分科会 トレーニングルーム（1階）

第2分科会 会議室（2階）

第3分科会 視聴覚室（2階）

第4分科会 第3会議室（2階）

1 全体会

（1）開会

（2）市長あいさつ

（3）市政概要について

（4）分科会について

（5）閉会

2 分科会

（1）開会

（2）自己紹介

（3）意見交換

（4）閉会

団体懇談会協議報告書

(敬称略)

名 称	第1分科会 (健康・福祉・医療・介護 分野)	会場	市民ふれあいセンター トレーニングルーム
協議日時	令和5年2月18日(土) 14時13分～15時30分		
出席者	平山新治(匝瑳市社会福祉協議会会長)、増田利夫(匝瑳市民生委員児童委員協議会会長)、木村政夫(匝瑳人権擁護委員協議会第三部会匝瑳市支部長)、福島俊之(旭匝瑳医師会会長)、小関敬人(旭匝瑳薬剤師会理事)、大野裕子(匝瑳市保健推進員会会長)、椎名よし(匝瑳市母子寡婦福祉会会長)、熊切茂(匝瑳市身体障害者福祉会会長)、橋口義範(匝瑳市シニアクラブ連合会会長)、山崎優子(匝瑳市手をつなぐ育成会理事長)、椎名文生(認知症と共々生きるオレンヂの会会長) <div style="text-align: right;">計11名</div>		
市職員	宮内康幸市長、大木恒一秘書課長(司会)、林鉄也市民課長、小川豊健康管理課長、菊間和彦福祉課長、林美幸高齢者支援課長、太田和広市民病院事務局長、増田進企画課副主幹(事務局) <div style="text-align: right;">計8名</div>		

協議概要

- 1 自己紹介 団体代表者、市職員の順で自己紹介を行った。
- 2 意見交換

○健康づくりの推進について

(匝瑳市社会福祉協議会)

健康寿命を延ばす努力をされていると思うが、国保における人間ドックの医療機関の範囲はどこまでか。

(市民課長)

本市においては、市民病院のみを指定させていただいている。

(匝瑳市社会福祉協議会)

特定検診との兼ね合いもあるが、人間ドックの医療機関の範囲の見直しを行い、幅を広げることについて検討をお願いしたい。

(匝瑳市身体障害者福祉会)

市民病院の建設はいつ頃になるのか。

(市民病院事務局長)

現在のスケジュールでは、令和5年度から着手し、令和9年度の完成を目指している。

(旭匝瑳医師会)

市民の皆さんは赤字であっても、新たな市民病院は必要であると感じている。

医師会の会員は高齢化しており、5年後、10年後には、医療機関は半分くらいに

協議概要

減ってしまうのではないかと危機感を持っている。地域での開業医は減少するが、高齢者人口はそれほど減らないので患者数は減少せず、この地域で医業を生業としても経営は成り立つし、千葉市からの通勤圏である。匝瑳高校から現役で医学部に入学する生徒はほとんどおらず、地元出身の医師は来ない。国際医療福祉大学や日本医科大学千葉北総病院、千葉大学とのパイプづくりや、開業を目指す医師に対する開業支援など、市民病院を含め外からの医師をどうやって確保していくのか、行政は考えていかなければならない。

(匝瑳市シニアクラブ連合会)

病院の給与体系は医療機関によって差があるのか。

(旭匝瑳医師会)

私立病院に関してはピンからキリまである。有能な医師を呼ぶため、破格の給与となる場合もある。公立病院に関しては、それほど差はないと思う。

○高齢者、障害者福祉について

(認知症と共にいきるオレンジの会)

高齢者が増加していく中で、高齢者福祉は行政だけでは手が足りなくなっている。そこで、自治会の予算を防災対策や高齢者支援策に回し、自治会を中心とした防災対策、高齢者対策の実施について、市から提言していただきたい。

(匝瑳市身体障害者福祉会)

身体障害者、知的障害者、精神障害者の手帳所持者は1,700人から1,800人、介護認定者は2,200人以上で、合わせると4,000人以上となる。市の人口は35,000人を割り、一人暮らしや高齢者世帯が多く、民生委員や各地区の役員などの人材がいなくなっており、高齢者福祉、障害者福祉における共助は難しい状況になっている。どうやって共助に取り組んでいくのか、共助と公助を一体化した方法など、行政において考えていく必要がある。

(匝瑳市民生委員児童委員協議会)

市全体の中で“地域と関わらない”という考え方が人々が増えている。特に男性の社会参画が減少しており、男性の民生委員は減り、今後は女性の方が増えていくと思う。

百歳体操の参加者は元気になっていく。集まって交流することは大事だと思う。

(認知症と共にいきるオレンジの会)

私もそう思う。定年退職後も活躍してほしいと思っている。歳をとっても外に出る、ステージを多く持つことが大切だと思う。

(匝瑳市身体障害者福祉会)

今日は市長の考えは話さないのか。

(秘書課長)

本日は皆様から意見を頂き、今後活かしていきたいと考えている。

(匝瑳市シニアクラブ連合会)

地域に子どもがいなく、婚活支援などが必要であると考え。人と人のつながりが

協議概要

なくなっており、地域全体で高齢者をケアする体制、健康・医療・介護の分野で自治会組織とネットワークをつくり、地域で支え合う体制づくりを要望する。

(匝瑳市手をつなぐ育成会)

昔は知的障害の子どもだけであったが、何年か前から自閉症や精神障害の子どもが増えてきて、身体障害者福祉作業所ほほえみ園で働いている方々は対応が難しくなっているという話があった。良い対策がないか福祉課に相談に行くかもしれない。

○子育て支援について

(旭匝瑳薬剤師会)

私は匝瑳市出身であるが、現在、市内に住んでいない。子どもが3人おり成田市に住んでいるが、引っ越した理由は、子どもの教育の部分が大きかった。匝瑳市は唯一進学校を市内に2つ持っているので、子育て支援として、うまく活用や連携ができるよう考えてもらえるとありがたい。

若い世代からの意見として、消防団やお祭り、民生委員など、これまで地域でやってきた当たり前の事が嫌でこの地域を出ていく若者が多いということは認識していただけると良いのかなと思う。

(匝瑳市保健推進委員会)

娘が2人おり、大学を出たが匝瑳市に住んでいない。電車の時刻の関係で、通える範囲が決まってしまうので、外へ出てしまう。今は都会に出ても、地元で就職先が多くあれば帰ってくることも考えられるのではないかなと思う。

現在、188名の方が保健推進員をやってくださっている。若い方は共働きや子育てなどで時間がなく、ボランティアなどやっている余裕はなく入っていただけない。民生委員なども含め、活動の内容がよくわからないということが理由にあると思う。いろいろな役の内容をオープンし、“これなら出来る”というような意識付けができる情報開示をしていただけると良いと思う。

(認知症と共に行きオレンヂの会)

今、匝瑳市の保育所の入所率はどのくらいか。待機児童はいないのか。

(福祉課長)

待機児童はいない。

(認知症と共に行きオレンヂの会)

保育所の終了時刻は何時か。

(福祉課長)

概ね6時半である。

(旭匝瑳医師会)

吉田小学校の学校医となっているが、就学児童は4、5人しかいない。匝瑳市の学校も統合していく形になる。スクールバスの運行、高齢者のボランティアによる通学支援など、市として周知や準備が必要である。

(匝瑳市母子寡婦福祉会)

協議概要

母子寡婦福祉会は古い団体である。多い時には会員数130名の大きな団体であったが、今は40名くらいと少なく、高齢化している。会費のほかに、市と社協（社会福祉協議会）からの助成で賄っていたが、運営が難しくなっており、活動を休むか、会を無くすか思案中である。

（福祉課長）

団体存続のお話があったが、これまで皆さんで協力し合い、楽しみながらやってこられた会であり、無くすのは寂しいことであると思う。福祉課としては可能な限り、存続の方法を一緒に考えさせていただきたい。

○医療・医療体制について

（旭匠瑳医師会）

私は、お年寄りで運転免許の返納などによりどうしても通院できない方に、訪問診療を行っているが、限界がある。通院手段の確保に向けて、定年退職して元気な人たちを、市で通院補助職員のような形で雇い入れることを考えていただきたい。

（匠瑳市身体障害者福祉会）

多古町や旭市では社協（社会福祉協議会）で外出支援に取り組んでいる。匠瑳市だけ取り組んでいない。

（旭匠瑳医師会）

市役所がやるということだけでは行き渡らない。元気な高齢者をいかに活用するかが大事ではないかと思う。社協も今やっていることで手一杯である。

○地域福祉について

（認知症と共にいきるオレンジの会）

私は認知症の方のサポートを行っており、オレンジカフェ、劇団オレンジ、オレンジファームの3つの事業に取り組んでいる。オレンジファームの農場では多くの認知症の方、ご家族の方、ボランティアの方に集まっていた。コロナ禍で休んでいたが4月から再開するので、お知り合いの方やボランティアで参加したい方がいたらお願いしたい。

○地域特性を活かした総合的な取組について

（匠瑳人権擁護委員協議会第三部会匠瑳市支部）

人権擁護委員協議会では、令和3年に匠瑳市人権施策推進指針という大きな計画を作った。是非、今度策定する中期基本計画にこの指針の考え方を取り込んでもらいたい。

○その他まちづくりへの提案について

（匠瑳市身体障害者福祉会）

広域農道や国道296号は朝夕混雑するため、近道となる家の前の狭い農道を通行

協議概要

する車が多い。新設道路が佐原線に抜けることから混雑もひどくなる。線路よりも上（北側）の地域は、山も多く道路が悪いので、対策をお願いしたい。

以 上

団体懇談会協議報告書

(敬称略)

名 称	第2分科会 (産業・経済分野)	会場	市民ふれあいセンター 会議室
協議日時	令和5年2月18日(土) 14時13分～15時35分		
出席者	鈴木茂(匝瑳市農業委員会会長)、大塚榮一(匝瑳市商工会会長)、平野元康(匝瑳市商工会青年部部長)、伊東勇(匝瑳商業協同組合理事長)、那智博行(匝瑳市観光協会会長)、佐藤茂雄(ちばみどり農業協同組合八日市場支店課長)、角田由江(JAちばみどり女性部そうさ支部八日市場地区支部支部長)、小川玲子(JAちばみどり女性部そうさ支部三栄地区支部副支部長)、林淳一(匝瑳市植木組合組合長)、椎名由利(八日市場ふるさと交流協会会長)、江波戸寿穂(そうさの米研究会会長)、片岡正勝(匝瑳市雇用促進協議会会長)、宇井昭夫((公社)匝瑳市シルバー人材センター会長)、石毛甲子男(千葉県大利根土地改良区理事長)、鈴木良雄(千葉県干潟土地改良区理事長)、桑田克己(北総東部土地改良区八日市場工区長)、依知川敏男(千葉県借当川沿岸土地改良区理事長)、越川洋(両総土地改良区山武支所支所長)、高坂勝(アルカディアの会代表)、大川功修(NPO法人匝瑳市観光物産協会理事長)		
	計20名		
市職員	宇井和夫副市長、大川純一財政課長(司会)、山崎利男税務課長、奥田賢二産業振興課長、山下和子会計課長、渡邊保行農業委員会事務局長、小泉泰孝企画課まちづくり戦略室長、加瀬陽平企画課主査補(事務局)		
	計8名		

協議概要

- 1 自己紹介 団体代表者、市職員の順で自己紹介を行った。
- 2 意見交換

○農林水産業の振興について

(そうさの米研究会)

米生産に取り組んでいるが、匝瑳市で第一次産業がだめになったらどうなってしまうのか。肥料等が高騰し、その反面、農業は売るものが一番安いという状況である。どう農業経営をしていくか心配である。第一次産業が悪いと匝瑳市全体が低迷してしまうと思う。第一次産業ががんばれる匝瑳市に向けて、ビジョンを持って取り組んでほしい。

(千葉県干潟土地改良区)

農家の現状について話をしたい。農家は大変な高齢化を迎えており、65歳以上でがんばっている高齢者が多い。後継者もおらず、米価も安く農業収入も少ないということから、農家を辞めていく方が多い。いわゆる「土地持ち非農家」の方が、大規模

協議概要

に農業経営に取り組む方へ耕作を依頼する形が増えている。農林業センサスを見ても農家数は減少しており、農業を生業とする方の数は、令和2年に136万人で、令和7年には80万人台になると見込まれている。農家を辞める方が多いということは、少ない人数で地域の農業、環境を守っていかなければならず、農家を続ける方にとっては、草刈りをはじめとした作業、仕事が増えて大きな負担となる。

環境保全会の活動に目を向けると、市学校給食センター東側の椿海から豊和にかけての水田で、県事業として大規模な耕地整理が行われている。全体面積は約425ヘクタール、春海、椿海、豊和地区と呼ぶ3区域に分け、平成21年度に着手し令和5年度に完了の見込みである。5年前に当該地域の耕作者約80人により環境保全会を設立し、5月から10月頃までの間に月1回、主にごみ拾いや草刈りといった活動を実施している。活動経費は多面的機能支払交付金制度により賄っている。活動を通じて普段話すことの少ないメンバーとのコミュニケーションが図れる上、参加者に対しては手当も支払うことができ、非常に良い制度であると感じる一方、高齢化の影響で実質的な活動メンバーは減少傾向にある。環境保全団体が増えると、市の財政負担も大きくなってしまいが、農家以外の方や女性も含めての活動への参加は、農家を側面から助ける手段の一つであると理解している。市においても既存保全会の育成と新規設立を働きかけていただき、市全体で環境を手助けしながら農家を支えていく制度を確立していただきたい。

(千葉県大利根土地改良区)

土地改良に関するお願いがある。基盤整備事業から50年以上が経過し、至る所で老朽化が目立ち、大きな問題となっている。先ほども発言があったが、米価も低迷し、農家においては利益が出ない状態である。構造改善事業による施設も各所に故障や傷みが生じており、事業を起こそうにも農家負担を伴うために賛同を得られない。国、県、市においては、大幅に支給額を増やしていただき、できる限り農家負担が少なくなるようお願いをしたい。

また、環境保全会に関して、農家にとっては慣れない書類作成が大変であり、この対応のために土地改良区において環境保全会の担当として手当したく、市職員やJA職員のOBを探しているところである。退職者で目ぼしい方が1人でもいれば、ぜひ声を掛けたい。

(アルカディアの会)

全国における農業の衰退は、これまでの与党による経済政策、地方と農業の犠牲を伴って農産物の輸入関税を下げてきたことの結果であるが、これは市単位で変えることができる問題ではない。現在、米価は1万円を切るような状況に対し、生産には1俵1万3千円～1万4千円かかり、農家を希望する方が減るのは当然であると思う。

そうした中、農水省においては、「みどりの食糧システム戦略」で大胆な目標を掲げている。例えば、2050年までに農業によるCO2排出量をゼロに、全農地面積の25パーセントを有機農業にする、化学肥料は50パーセント減にするというもの。全国で、学校給食をオーガニック給食に変えていこうという動きがある。県

協議概要

内のオーガニック給食導入は、いすみ市が第1号で、木更津でもその動きがある。有機農業は小規模なイメージがあるが、中・大規模でも取組可能な方法論ができてきており、これが次第に有機農家に展開されれば、給食で買い上げられることで通常の米価よりも1.3から1.4倍高値となる。若い農家ほど安全志向が高いため、徐々に有機農業に移行し、地域の人たちがオーガニック給食に誇りを持つことから地産地消につながり、移住者、特に子育て世代の増加に貢献する。さらに、移住者は生業を起こしていき、産業の発たち、ブランド力の向上により、市は広告費を掛けずにメディアに取り上げられるといったような循環が生まれる。従来型の農業と有機農業は対立する構図のように思われがちだが、現状の0.5パーセントの有機農業を2050年までに段階的に25パーセントまで向上を目指すことは対立するものではなく、見方を変えると2050年でも75パーセントは従来の農薬・化学肥料が必要な農業であるということである。先行して取り組んでいるところが勝つことができ、今オーガニック給食を導入しているところでは、人口の増、米農家収入の増、面積の拡大、知名度の向上、移住者の増という効果が上がっている。何よりも市民が自分たちの地域の米を買うことが大事である。いすみ市の例では、人口3万5,000人程度の規模で、オーガニック給食の導入で400万円の支出増で実現したということである。

アンケートの結果によると、農家希望者の8割は有機農家を望んでいる。新規就農者向け施策で、農家研修に年間150万円、期間3年間の助成を受けられるが、ほとんどが従来の農業から有機農業へたどり着く。有機農業で小さく取り組めるシステムをつくれば、匝瑳市へも農家希望の移住者が増えていくのではないかと。本日午前中に里山活動を行ってきたが、都心から約40名の参加者があり、こうした人たちを本市へ呼び込むことが可能である。一つの良い循環が全体に波及していくので、オーガニック給食の導入はすぐには難しいかもしれないが、何年かけてもぜひ実現していただきたい。

(北総東部土地改良区)

資料(※第2次匝瑳市総合計画前期基本計画概要版)の4ページに、「「匝」は訓読みで「めぐる」と読み、「瑳」は「あざやか」あるいは「みがく」と読む」と書いてあり、続いて、その他にもとても素晴らしいことが書いてある。

北総東部の地域には、谷津、水田を有しており、一筆で地域を巡る散策道を考えてみた。大寺地区だけで未舗装道路が10キロぐらいあり、内山から金原、北中までを巡ると30～50キロに達し、駅伝も可能で、散策も飽きずにできる。これを地区民から始めて、広く市民に歩いてもらえる環境づくりも良いと思う。

大寺地区でも環境保全会の活動が行われており、ある程度きれいになってはいるが、大きい農地の場合、法下までは草刈りできないために排水路周辺に草が残っている部分があり、何とかならないかと感じている。何よりも人が集まらなければならぬし、押し付けてもいけないと思う。地域内ではセイタカアワダチソウやススキが繁茂しているが、皆が関心を持つことで、「バイオ燃料として使用する」「山をきれいにして鑑賞する」「屋根を葺く材料として使用する」等いろいろなことを考えて、発見

協議概要

につながる。先ほどの駅伝や散策の話に戻るが、地域に集まれるような工夫ができれば良いと思う。押し付けず自然に集まって、行政と市民が一緒になり取り組めると良い。

○商工業について

(匝瑳市商工会)

昨年末にタダヤが閉店し、126年の歴史に幕を下ろした。閉店日にも立ち会い、店舗のファン約50人がその瞬間を見届けたが、明かりが消えて非常にさみしい思いである。同店の社長から有効利用の希望があったが、当該場所は中高生も多く使っており、モノを売るだけでなく、文化的な部分についても同店が発信をしていた。どういった形となるか分からないが、跡地活用について今後の課題とし、市、商工会が一緒となり検討していきたいと考える。

(アルカディアの会)

匝瑳市へ移住してきた当時から商店街にさみしさを感じていた。商店街の問題は全国的に同じような状況である中、盛り返しているところは移住者が入ってきて、その中に引き継がれて在住の若者が商売を始めるという流れである。そうした商店街での取組例に「リノベーションスクール」と言い、貸出料や改装費を通常よりも安価にして起業しやすくし、利益が上がったら少しずつ貸出料等を上乘せしていくというものがある。地域を元気にしたい若者や思いのある年配者が集まって共同でつくり上げる動きが日本中で起こっている。そうした1店舗が、タダヤがそうであるように、ただの店舗ではなく「人が集まる場所＝サードプレイス」である。

若者たちが入ってきやすく、夢がかなえられるとともに、市や当人の支出も少なく、また、協力する側も将来的に採算がとれるシステムをどうつくるか、という取組が必要であると思う。今であればシェアオフィスやコワーキングスペース等「ひとりビジネス」の方向けの取組が多く、横浜等の都市部でもかろうじて採算性が取れる程度なため、地方では行政主体で取り組む必要がある。シェアオフィス利用者同士でそれぞれのビジネスにおける課題解決につながる相乗効果も生まれ、地域の商店や生業が増えていくことが起こっている。

地域おこし協力隊員が、協力隊の活動にとらわれずに学生が集まれる場をつくろうと考えている。人の集まれる仕組みを通じて、カフェ等が本市にできればと考えており、皆さんにも御協力いただくとともに、市内の商業が起こることに頑張っていきたい。

○観光について

(匝瑳市観光協会)

この3年間はコロナ禍にあって様々な祭事・イベントが中止となった。徐々にコロナ以前の日常に戻ってきており、国ではG o T oや旅行支援等で人を動かす、集める企画に取り組んでいるので、当会としても感染状況を注視し、感染対策にも万全を期

協議概要

して、イベント等を元に戻していきたい。

当会の中長期的な目標として、市行事との連携やイベントへの協力、市の魅力である自然豊かな環境や歴史的文化財の観光資源化、県内外から人を呼ぶためのSNSを通じた魅力発信を進めている。本市はロケ地として、NHKの大河や朝ドラ、フジテレビのドラマやネットフリックス（※インターネットを通じた動画配信サービス）の作品で使われ、有名人が訪れている。最近でいう「聖地巡礼」も利用して、これら情報を発信していくことができると人も集まるし、経済効果も期待できる。例えば、先のネットフリックスのドラマ「極悪女王」のロケでは、3日間にわたりのさかアリーナで撮影が行われ、市内からのエキストラ約200人を含む計600から700人が参加した。この規模だと弁当代だけでも市内に経済効果を生むため、これからもロケ誘致等により情報発信等に取り組んでいきたい。

(ちばみどり農業協同組合)

市と協力した農業者の所得向上に向けた取組として、当組合の状況をお伝えしたい。農業後継者の問題については、新規就農者が少ない中であるが、水稻をメインとし、加えて畑作ではネギに取り組まれ、ネギはサンフレッシュにおいて集荷をしている。ネギの後継者育成として「ひかりねぎ研究会」を立ち上げ、新規就農者や後継者約30名により、ネギの品種試験や台風対策、コロナ以前では販売促進のために都内スーパー等へ赴いて活動をしていた。同研究会メンバーとして匝瑳市内の農業者も半分程度を占めているので、活動の紹介も兼ねて報告する。

米生産に関しては、米に付加価値を付ける観点から、一昨年、須賀地区に低温倉庫を建設した。市内中の米をこの倉庫に集めて出荷するが、同所に大型精米施設も設置し、地産地消の観点から学校給食等への供給も行っている。横芝光町や旭市ではそれぞれ地元産米を学校給食に使用しているが、匝瑳市は地元産米を使用されていないとのことなので、ぜひ匝瑳市の米を子どもたちに提供していただきたい。なお、ピーマン、ネギ、キュウリ等は給食材料に使っていただいている。

新規就農者も含めて融資の相談も窓口で多くいただく。機械購入等の際に、国・県・市の補助金等を充てた残額分を融資で賄うという形で取り組みたいので、補助制度の情報提供もお願いしたい。

(千葉県借当川沿岸土地改良区)

当改良区の受益地内は山間を有し、耕作放棄地がまとまって何町歩もできてしまった。なんとか復田しようとの考えがあるが、支援策があれば情報を伺いたい。

(産業振興課長)

耕作放棄地の解消に向けて、市では、利用集積について農家等へ周知を図っているところである。御発言にあった状況に関しては、同改良区内にどの程度耕作放棄地が存在するか調査を行った上で、事業化できるかどうかについて周知等に取り組んでいきたい。

(アルカディアの会)

SOSA PROJECT（ソーサプロジェクト）の活動は、アルカディアの会が取り組む里山

協議概要

活動を引き継いで行っているが、その取組として50平米の田んぼを使い、1年かけて都市住民に対して田植えから稲刈りまでの米作りを教えている。この米作りで1年間に20回は本市へ通う必要があるが、遠くは名古屋や群馬からの参加者がいる。毎年本市に通うことから移住に発展し、また、移住者が農家になったり、小さいながらも生業を起こしたりしている。こうした暮らし方を「半農半X（エックス）」とよび、兼業農家とは異なり、農については自分が食べる分だけ作るというものである。半農半Xという言葉は20年ほど前にでき、自身は伝える側・実践する側として取り組んできたが、3年ほど前からは農林水産省も半農半Xがこれからの地域社会を支える担い手となると打ち出し、今年の農業白書内にもトピックスとして取り上げられている。先般、宮内市長が東京・ふるさと回帰支援センターを訪れた際に、移住希望者が半農半X志向であることに驚かれていた。ただし、「X」をいかにつくるかということが難しく、Xをつくり上げるサポートについても市と相談しているところである。

都会から本市へ来ると高い建物がないたため、「空の広さ」が素晴らしく感じられ、魅力的である。「何もない」ではなく「すべてがある」ということと思っている。例えば、飯高檀林に毎日大勢の人が訪れてしまえば、今の良い雰囲気、環境が壊れてしまいとても残念で、単純に観光客が増えればよいのではない。今の風潮は、モノを買うことや見学することよりも、「体験」や「応援」であり、米作り体験もそうであるように、こうした流れが日本中で起きている。米作りで本市に来たこともあり、地方創生に取り組んでいる吉田基晴氏の例では、「半IT半X」を掲げ、代表を務める会社を東京から徳島県美波町に移転し、そこに若い社員が集まってきて、さらには地域おこし会社も設立し、町を人口増に転じさせることにもつながった。体験をつくり出しながら人を呼びこむことが、本市の環境の良さを感じてもらえ、移住、関係人口につながっていくと考える。

○その他地域活性化に関することについて

(そうさの米研究会)

この地域における第一次産業は、匝瑳市が最も持っており、第一次産業のまちである。第一次産業が衰退してしまうと皆シャッター通りとなってしまう。市として、第一次産業に対する財政面等いろいろな面から面倒を見てほしい。

(匝瑳市シルバー人材センター)

シルバー人材センターでは、高齢者が働く場所を確保するための取組を行っている。会員の平均年齢は、70歳から74歳までが人数では最も多く37パーセント、75歳から79歳までで約25パーセント、80歳以上は41パーセント。60歳代で会員に加わる人は少ない。高齢者が地域で連携して楽しく、協力の下で働いてもらいたいとの思いで、働く意欲のある高齢者に道を開き、健康で病気にならないことを目指してやっている。

3年前には約240名いた会員も、コロナの影響や高齢化で現在は217名に落ち込んだ。会員に対して、普段市内を移動する際に道路の陥没や排水路のつまり、倒木、

協議概要

カーブミラー等支障のある箇所が目についた場合には、事務局を経由して市へ報告し修繕等につなげるということをボランティアとして実施している。この活動は平成元年6月から始め、通報件数では580件ほど、箇所数では790件ほどに上る。高齢者だけでなく我々が働く中でも活性化につながり、ボランティアにもなるということで提案させていただく。なお、通報制度に関しては、昨年6月に印西市でアプリを使った取組を始めたとのことだが、当センターでは平成元年から会員により実施している。一人で多くの高齢者に会員になっていただき、元気で取り組んでいくことを目指して活動している。

○総合計画分野における施策に関する提言等について

(アルカディアの会)

資料(※第2次匝瑳市総合計画前期基本計画概要版)の7ページの数値目標として、「農業体験・交流イベント参加者数」が目標・700人/年、現状・416人/年となっている。SOSA PROJECTの活動での実績では、米づくりに年間100組が参加し、1組当たりで家族では2、3人、1人参加でも20往復するため、延べ2,000人から3,000人は参加している。また、ソーラーシェアリング関連では、見学等で年間2,000人、収穫祭イベントでも1,000人の参加はあるので、少なく見積もっても4,000人から6,000人は農業体験・交流イベント等で本市へ訪れているので、数字としてお伝えする。

(千葉県大利根土地改良区)

数年前の大雨の際にカインズ八日市場店前の国道が冠水し、その後排水工事を行ったようであるが、排水先の大元に大布川がある。ちょうどこの場所(ふれあいセンター)から南側辺りで、柵渠が4か所程度崩れている。状態が悪い箇所は多いが、特にこの場所はひどい。水路内には土が溜まり、50メートルくらいになる。農繁期を控えて梅雨も近く、市と協議する間もないため、当改良区で対応している。10年ほど前には、八石(八日市場イ地先)の用水路内を、市で浚渫してもらった経緯がある。柵渠等構造物は当改良区で対応してよいが、堆積した土砂の対応は市で定期的に対応してもらいたい。昔は用水であったが、現在では排水のみに使用されている。

(財政課長)

御意見の箇所については、担当課で確認させていただく。

以 上

団体懇談会協議報告書

(敬称略)

名 称	第3分科会 (生活環境・都市建設・市民協働分野)	会場	市民ふれあいセンター 2階 視聴覚室
協議日時	令和5年2月18日(土) 14時12分～15時45分		
出席者	大木昭男(匝瑳市区長会会長)、佐藤喜巳(匝瑳市防犯協会会長)、宮内宏巳(匝瑳交通安全協会理事長)、並木富子(匝瑳交通安全協会婦人部部長)、秋山忠史(匝瑳市消防団団長)、大木公正(匝瑳市不法投棄監視員連絡会議会長)、月岡喜弘(匝瑳市八日市場建築連合組合組合長)、加瀬功一(匝瑳市ボランティア連絡協議会会長) 計8名		
市職員	布施昌英総務課長(司会)、林雅之環境生活課長、飯島正弘都市整備課長、嶋田誠人建設課長、大川洋野栄総合支所長、鈴木伸一監査委員事務局長、増田善一議会事務局長、木内将市郎企画課主査補(事務局) 計8名		

協議概要

- 1 自己紹介 団体代表者、市職員の順で自己紹介を行った。
- 2 意見交換

○生活環境等の評価について

(匝瑳市不法投棄監視員連絡会議)

ゴミステーションは、各地区において管理されているが、ゴミステーションが整備されていない地区が見受けられる。そのような地区では、ごみを置いた上にシートをかぶせるなどしてカラス等の対策を試みているが、シートは風で飛ばされやすく、作業は地区の高齢者が分担して行っているため、住民の負担となっている。市ではどのような対応をしているか。地区からの申し込みがあれば、市でも対応してくれることと思うが、話がまとまらない地区においては、そのような状態が何年も続いている。

(環境生活課長)

ゴミステーションの設置については、原則として10世帯以上の一般家庭からの申請と、それに基づく市の設置許可が必要となる。申請には原則10世帯以上が必要だが、それ未満の場合は、収集可能な場所であるか等の個々の状況を確認しながら、対応を検討している。それぞれで状況が異なるため一概には言えないところだが、まずは市に御相談いただきたい。

(匝瑳市消防団)

地区の予算の関係もあると思う。ゴミステーションの設置や管理について、地区で話がまとまればよいのだが、そうでない場合は今の話のように大変である。設置や管理について、市の補助等はあるか。

(環境生活課長)

協議概要

ゴミステーションの設置等は各地区等に行っていただくものである。設置等に関する市の補助等はない。

(匝瑳市不法投棄監視員連絡会議)

例に出した地区は高齢者が多く、皆さん御苦労されている様子であった。設置するスペースはあるが、地区として話がまとまらないという課題がある。

(匝瑳市防犯協会)

ゴミステーションの関連で言えば、地区住民の方はごみをきちんと分別してくれるが、アパート暮らしの方は出し方を知らないのか、分別も収集もされないまま、ステーションに放置されている様子が見受けられる。ごみの出し方について、市からもっと浸透させてほしい。

(匝瑳市不法投棄監視員連絡会議)

収集業者も、適切に分別されていないものは収集せず、そのまま置いて行ってしまう。環境生活課でも周知をしているが、なかなかうまくいかない。

(匝瑳市消防団)

地区であれば、分別や収集曜日の確認をしてくれる人がいる。アパートでも、管理する当番等の仕組みがあればよいのだが。

(匝瑳市防犯協会)

ごみの出し方の説明についても、昔は絵が描いてあって分かりやすかったが、今は文章が多いため、分かりにくいのではないか。

(匝瑳市不法投棄監視員連絡会議)

ごみの出し方については、絵が描かれたポスターにして配っていると思う

(環境生活課長)

冊子やイラスト入りのポスター等、様々な形で配布している。また、多くの方に知っていただくために、インターネット上にも掲載している。今後もそのような周知を進めたい。

(匝瑳市不法投棄監視員連絡会議)

ごみが収集されず、そのままになってしまうと良くない。環境生活課において、区長さん等にもお話しいただき、周知を進めてほしい。

(匝瑳市区長会)

区長会においては、各地区の連絡員を通じて、回覧板等により様々な配布や周知を行っている。周知の依頼等があれば、対応していきたい。

(匝瑳市不法投棄監視員連絡会議)

最近コンビニでビニール袋を配らなくなったため、ビニール袋に入ったごみの投棄は減ったと思う。

○快適で安全なまちづくりのための整備について（主にハード事業）

(匝瑳市防犯協会)

天神山公園に防犯カメラが設置されているが、奥の公衆トイレ周辺には設置してあ

協議概要

るか。日中はいいが、夜になると怖そうな場所がいくつかあるため、防犯カメラの設置等の対策があるとよい。

(都市整備課長)

防犯カメラは、グラウンドの周辺には設置されているが、奥の駐車場のトイレ周辺には無かったと思う。設置等の対策について、御意見を踏まえて検討したい。

(匝瑳市防犯協会)

そうさ記念公園において、夏になると夜にドリフト走行をしている人がいる。そうした車について対策はできないのか。

(都市整備課長)

公園内に看板を立てて、利用のルールや迷惑行為の禁止を周知している。市役所本庁舎において、夜間には警備員が配置されているが、公園内での車の暴走行為等について報告を受けたこともある。公園は24時間使える施設として夜間も開放されているため、迷惑防止のための取組を引き続き検討したい。

(匝瑳市消防団)

公園内は道路ではないので、警察による取り締まりはできないのか。防犯カメラ等があれば、当該車種の把握や危険行為の記録ができるのではないかと。看板等で警告するなどして、警察の方で対策はしてもらえないのか。

(都市整備課長)

警察から、近隣からの通報に基づき夜間見回りを実施したとの連絡を頂くことがある。警察でも通報や相談に基づいて見回りをしていただいているが、市から巡回依頼は行っていない。

(匝瑳市消防団)

車の把握も重要である。巡回は警察でも対応してくれるだろうが、その場での抑止だけでなく、場合によっては罰せられる行為であるということを示してはどうか。

(都市整備課長)

JR八日市場駅前においても、過去に迷惑行為に対する苦情があり、防犯カメラにより対応したことがある。今後は環境生活課と検討したい。

(匝瑳市八日市場建築連合組合)

防災無線の受信機について、電池切れが早いような印象を受ける。昔のアナログのものは、もっと電池が長持ちしたような気がする。電池切れに対するバックアップは無いのか。

(総務課長)

防災無線の電源は、コンセントと電池の両方がある。コンセントが主電源であり、停電時等には予備電源である電池に切り替わる仕組みだが、電池は徐々に消耗していくため、交換時期をブザー機能によりお知らせしている。電池切れに関する御意見はこれまでも頂いており、広報等の媒体を使って電池交換をお願いしている。

(匝瑳市消防団)

電池切れを知らせるためにブザーが鳴っていることを知らない人が多いため、総務

協議概要

課とも周知や対策について協議したことがある。引き続き広報等で周知を図ってほしい。なお、最近は防災無線を通じたお知らせが行われるようになった。

(総務課長)

引き続き周知を図りたい。

(匝瑳市防犯協会)

防災無線の話になるが、屋外の防災無線について、途切れ途切れになって聞こえないことがある。

(総務課長)

各小学校に屋外スピーカーがあり、屋外のもは基本的に途切れることは無いと思うが、戸別受信機が途切れてしまうという問い合わせは多い。受信状況等については、担当者が相談やアドバイスを行っている。

○快適で安全なまちづくりのための整備について（主にソフト事業）

(匝瑳市防犯協会)

詐欺や強盗事件等の犯罪が全国的に報道されている。防犯カメラの設置について、市の補助等は無いか。

(環境生活課長)

環境生活課で設置・運用している防犯カメラは、現在9台ある。設置等については警察とも協議している。

(匝瑳市防犯協会)

振り込め詐欺のターゲットである高齢者のお宅の電話機は、留守番電話機能や録音機能がついていないものも多い。詐欺対策として、電話機に対する補助等は無いか。

(総務課長)

分野が異なるため、この場での回答は致しかねるが、御意見として担当課に共有する。

(匝瑳市不法投棄監視員連絡会議)

分野外のテーマかもしれないが、先ほどの全体会において、市長が財政改革を行うと発表していた。しかし、今後人口が減少していく中で、果たして市が持ちこたえられるのだろうかという不安がある。市役所も職員数が減る中で、やるべきことは今までどおり続けていくとなると、行政や財政の改革を図ることが必要ではないか。

(総務課長)

市の行財政改革は、行政改革大綱に基づいて実施しており、歳入の増加と歳出の削減を計画的に推進している。自主財源は35パーセント程度であり、標準的な行政運営に必要な経費に要する不足分については、国からの地方交付税交付金により賄われているが、市が独自の施策を単独で展開していくためには、財源を確保する必要がある。人口が減っている中で、自主財源を増やすのは難しい状況ではあるが、人口増加に向けた施策等を通じて財源確保に取り組んでいる。とはいえ、近隣市町村も同じような取組を進めているため、近隣ではなく、人口が多い都市部等からの転入促進を図

協議概要

る必要がある。

(匝瑳市不法投棄監視員連絡会議)

匝瑳市の財政力指数は県内で34位とのことだが、市が破綻してしまってもならない。夕張市の例のように、財政再建団体になってしまうと、行政サービスが縮小してしまう。少子高齢化で子どもが少ないのに、出ていくお金が同じでは、将来的には立ち行かなくなると思う。市としては今度どのように取り組むのか。

(総務課長)

財政面では、依存財源である国からの地方交付税交付金に頼っている状況である。限りある財源を有効に活用し、市長を先頭に市が一丸となって努力していきたい。

(匝瑳市区長会)

先日、地元で「須賀の教育を考える会」という集まりがあったが、そこで須賀保育園の先生が「とにかく園児が入ってこない」と窮状を訴えていた。少子化に対する危機感を強く感じた。

(匝瑳市消防団)

人口減少については、次の市民協働にも関連するテーマだと思う。

○市民協働について

(匝瑳市区長会)

人口推計を見ると、市の人口は令和42年には15,000人にまで減ってしまう。先ほどの「須賀の教育を考える会」では、保育所の先生が、子どもが少なくなった窮状を本気で訴えていた。最近では結婚せず独身のままの人が若い世代に増えているように思う。

(総務課長)

少子化対策分野に関する話題であるため、御意見については、関係課に共有する。

(匝瑳市ボランティア連絡協議会)

財政や人口減少、少子高齢化等は大きな問題である。その対策として、市は市民協働を打ち出しているが、なかなかうまく進んでいない。市役所の業務や住民のニーズが複雑多様化する中で、職員数も予算も減っている。状況を打開するためには、行政と市民が協働して課題を解決していく必要があるが、市民協働が進まない要因の一つとして、行政側の意識改革が無いことが挙げられる。市は課題の解決を、あるいは自分事として感じていないのではないか。一つの事例だが、先日、市の呼びかけに基づき、ボランティア連絡協議会・社会福祉協議会・市の三者が協働でボランティアキャンペーンを実施した。これまでの行政のスタイルは、住民と対峙するような形であったが、今後は対決ではなく融和が必要であり、人口減少という大きな問題に対応するためには、行政側の早急な意識改革が必要である。

(環境生活課長)

市民協働について、これまでも職員研修を実施してきた。今後も研修等により職員の意識改革等を進めたい。

協議概要

(匝瑳市消防団)

人口減少と関連して、現在は消防団も人員確保が難しく、存続が危惧されている。若い人の個人の意識の変化が大きな要因であると思う。自分が若いころは、地元のために共同で何かに取り組むということは、当たり前のこととして親から受け継がれてきた。常設消防が設立した当時は「もう消防団はいらないのではないか」と言う不要論も聞こえたが、阪神大震災以降は消防団の重要性が再認識されるようになった。しかし、今は若い人の意識が個人主義に変わってしまっている。消防団の人員確保については、全国的にも手当の支給額増加等により人集めが行われているが、お金の問題だけではないと思う。完全な個人主義になってしまっていることに加え、家庭や学校、地域においても消防団に関する教育が行われなかったことで、消防に対する理解が無い大人も増えている。みんなで成し遂げる達成感や楽しさ、消防団の重要性を広めなければ、若い団員は増えていかない。人員確保のために、様々な対策やシステムが講じられているところだが、まずは周知や教育等により、若い人の意識を変えなければならぬと思う。

(総務課長)

消防団は地域の防災力を支えている。人員の確保や若い世代の意識改革について、引き続き消防団と協議しながら対策を進めたい。

(匝瑳市ボランティア連絡協議会)

全体的な事かもしれないが、今の匝瑳市の欠点は、野栄町と合併したメリットを活かせていないことであると思う。野栄の良さは沢山あるが、八日市場の人はなぜか冷たい。市の発展のためにも、今後は過疎地域にも指定された野栄の抱えている問題を、市全体で対策していく必要がある。野栄はたくさんのポテンシャルを持っているが、八日市場の人はあるいは気が付いていないのか、手付かずのまま活用されていない。今後、のさか望洋荘の跡地にグランピング施設が整備される。働き方が多様化し、リモートワークやワーケーション等が進む中、若い人のニーズにマッチするのは野栄しかない。例えば、道の駅を造るとか、新病院を持って来るとか、そのぐらいのことをする覚悟で野栄を発展させないと、匝瑳市の発展もない。野栄の人はイノベーション意識も強く、協力しない手は無い。経済的な面で野栄を考える協議会や審議会を作っていたきたい。

(総務課長)

大切な意見だと思う。今後の計画策定や施策展開に当たり、御意見として承りたい。

(匝瑳交通安全協会理事長)

各地区を回ると、草が伸びていて道路側にはみ出している箇所をよく見かける。市の方でも対策できないか。

(匝瑳交通安全協会婦人部)

松山の鈴木鉄工付近から飯高特別支援学校近くの十字路へ向かう道路等である。

(建設課長)

お話にあった箇所は、おそらく県道であると思う。県道の場合、建設課が窓口とな

協議概要

って県に報告し、草刈り等を依頼している。市道の場合、要望箇所については生活道路や通学路を中心に対応を進めている。

(匝瑳市消防団)

地区ぐるみで、年に何回か道路上の落ち葉等を清掃する作業をしているが、集めた落ち葉の処理に困っている。ごみ処理場において、落ち葉等は個人宅から出たものは受け入れるが、地区で集めたものは受け入れられないと断られてしまった。

(建設課長)

例として、道路の側溝に堆積したものは汚泥扱いになるが、地元で清掃したものは汚泥扱いとはならないと思う。

(環境生活課長)

中継施設における受入方法についての御質問であると思う。確認の上、回答したい。また、今後、同様の作業を行う場合には、事前に作業内容等について、市に御相談いただければと思う。

(匝瑳市消防団)

作業時期の前に、市に相談するように伝える。よろしく御対応願いたい。

○地域特性を活かした総合的な取組について

(匝瑳市消防団)

コロナ禍ということもあり、このところは防災訓練が実施できていない。多くの方は震災や台風の記憶が薄れていると思う。山の方では崖崩れや、海の近くでは津波など、想定される危険は多様である。行政においても防災に関する訓練や周知等を引き続きお願いしたい。

(総務課長)

台風や新型コロナウイルス感染症の影響により、近年は防災訓練を開催できない状況が続いていた。防災訓練の期日の見直し等も含めて、日程調整の上、実施していきたい。共興・野田・栄地区においては、津波に特化した訓練等も実施されている。地域の実情に合った訓練の実施について、引き続き検討していきたい。

(匝瑳市消防団)

東日本大震災の後は防災の講演会なども行ったが、年月が経ったことで、災害の記憶や危機感が薄れてきていると思う。津波から避難するルート設定等を定めて、何かの機会に配布や周知ができるとよい。

(匝瑳市不法投棄監視員連絡会議)

危機感は薄れていると思う。津波訓練や会議を実施しても、役員以外の人は参加がない。もっと多くの方に呼びかけをしてほしい。

(総務課長)

市としても検討していきたい。

(匝瑳市ボランティア連絡協議会)

旧匝瑳小学校の利活用の状況はどうか。話が動いていないように見えるが、5年、

協議概要

10年と時間をかけている間に社会情勢は変化してしまう。スピード感が必要である。

(総務課長)

敷地を確認したところ、民有地が入り込んでいることが確認されたため、現在は底地の整理を進めている。

(匝瑳市不法投棄監視員連絡会議)

使用しなくなった公共施設について、市ではどのように考えているか。のさか幼稚園は3月で閉鎖されるが、今度はどうなるのか。地元のシニアクラブ等が陳情に伺っていると聞いている。

(総務課長)

跡地の利活用については、今後スピード感をもって検討する。

以上

団体懇談会協議報告書

(敬称略)

名 称	第4分科会 (教育・交流・移住・定住分野)	会場	市民ふれあいセンター 第3会議室
協議日時	令和5年2月18日(土) 14時00分～15時40分		
出席者	加藤雅博(匝瑳市校長会会長)、石川浩之(匝瑳市社会教育委員会議議長・そうさ市子ども会育成連絡協議会会長)、加瀬靖之(匝瑳市文化財審議会会長)、依知川雅一(匝瑳市八日市場文化会事務局長)、野仲哲二(匝瑳市野栄文化会副会長)、平山洋(史跡飯高檀林跡を守る会会長)、鈴木和彦(匝瑳市PTA連絡協議会会長)、角田利和(匝瑳市スポーツ協会会長)、熱田喜彦(匝瑳市国際交流協会会長)、神子真一(八日市場ライオンズクラブ会長)、小川恭史((一社)八日市場青年会議所理事長)、青山完(NPO法人SOSA PROJECT 理事)、都祭広一(匝瑳城郭保存活用会会長)、井上峰夫(飯倉駅前地区まちづくり協議会会長)		
	計14名		
市職員	二村好美教育長、鎌形健企画課長(司会)、矢澤敏和学校教育課長、畔蒜稔行生涯学習課長、多田真弓企画課副主査(記録)、伊藤優志企画課副主査(事務局)		
	計6名		

協議概要
<p>1 自己紹介 団体代表者、市職員の順で自己紹介を行った。</p> <p>2 意見交換</p> <p>○学校教育について (匝瑳市校長会)</p> <p>これまで、市並びに教育委員会においては、市内学校・幼稚園の子どもたち及び保護者に対する支援や施設整備等をしていただき感謝申し上げます。</p> <p>近年では、全校のエアコン空調設備の整備のおかげで、快適な環境になった。また、トイレの大規模改修においては、トイレが汚れていると気持ちが落ち着かないことや、友人同士のトラブルにつながることもあったため、綺麗に整備されたことで、子どもたちが快適に過ごせている。</p> <p>1人1台のパソコン・タブレット端末や通信環境の整備では、国のGIGAスクール構想に基づき、子どもたちの学びの仕方が大きく変わってきている。かつては教科書やプリントだけだったものが、大型テレビや1人1台のタブレットの導入により、言葉で表現できない子どもも、文字を打つことで自分の考えを伝えることができるといった良い効果が出てきている。反面、最近、子どもたちの気持ちの面において、友人同士のトラブルを自分たちで解決する力が弱まっているように感じられる。学ぶ意欲の低下や、気持ちの面で不安定な子どもが増えたように感じられる。また、特別な</p>

協議概要

支援を要する子どもも増えたように思う。ここ数年で家庭の状況や保護者の考え方も変化したことも実感している。

ここ数年のコロナの影響により、マスクで表情が見えない、近づけない、大きな声を出せないといった制約があり影響が出ている。まもなくコロナの対応が変わるので、関係づくり、子ども同士のふれあい、体験の活動を再開して充実させていきたい。関わりの中で、自分で解決できる力を養い、学びへの力も付けていきたいと考えている。社会教育・生涯学習の観点からも、学校以外での経験や地域の人たちとのふれあい、外部人材を活用した体験活動が多くできるようにしていただけるとありがたい。

(匝瑳市文化財審議会)

匝瑳市では、これまで多くの遺跡が発掘されている。多古田遺跡等では、縄文時代の遺物が出てきている。以前から市に対しては、遺物の公開や学校教育での活用についてお願いをしてきた。かつて銚子市の文化財審議員をしていたが、銚子市では保管場所が点在しており、展示が難しい状況にある。匝瑳市でも一部しか展示されておらず、他の遺物がどこに保管されているか分からない。廃校等を活かして、2か所くらいに保管し、活用できるようにすることが必要である。保護だけでなく、活用できることが文化財においては重要だと考える。

活用という観点においては、歴史や昔から続く生活の過程を知るために、市民公開が重要である。若い人の関心がないため、小中学校の郊外学習で児童生徒に文化財を見てもらい、授業の発展につなげてもらいたい。また、そのためには、先に学校の先生方に実物を見て、知ってもらいたい。子どもたちに知ってもらうことが市の発展につながると考える。

(生涯学習課長)

現在、2か所の倉庫及び生涯学習センターに保管をしている。また、生涯学習センターロビー及び野栄総合支所展示室に展示をしている。多古田遺跡については現在整理しており、今後、展示できればと考えている。

(教育長)

豊和地区の多古田遺跡から、貴重な縄文土器や丸木舟、櫂等が発掘された。多くの市民に見ていただきたいと考え、生涯学習センターにおいて期間限定の特別展を実施した。コロナ禍ではあったが、市の広報紙やホームページで周知した上で展示した。現在は、一部を生涯学習センターロビーで展示している。

コロナの状況次第では、学校教育での活用の機会を設けることも可能だと思われる。本市は貴重な遺跡も多く、積極的にPRに努めることも必要だと思う。貴重な御意見として受け止めたい。

(学校教育課長)

学校教育において、郊外学習で実物を見ることは良いことだと思う。また、副読本という小学校3・4年生が学習する本市独自の教科書の中で、文化財も含めて伝統や行事を子どもたちに紹介していきたいと考えている。

(匝瑳市社会教育委員会議長・そうさ子ども会育成連絡協議会)

協議概要

学校の部活動について、部員が減って大変な状況にあるのは分かるが、部員がいる時点で募集をやめて廃部になったところがある。市内の中学校が合同でチームを編成することはできなかったのか。指導ができる教員がいるにもかかわらず、その部活の経験のない教員が顧問になっていることがあり、子どもたちが苦勞しているのを見て、知人に指導をお願いしたこともある。部活動も市内の大会もなくなり残念に思う。今後復活はできないのか。外部顧問は難しいのか。過去には外部から指導に来た人もいる。

学校教育における文化財の活用についても、外部から講師を招き文化財を紹介することで、教員の負担が減ると思う。そのため、以前からボランティアコーディネーターの設置についてお願いしてきたが、その点はどうか。

(匝瑳市校長会)

部活動は、子どもの数が減って、学級数も教員数も減った。教員数が2倍であったときと同数の部活数があり、現状の運営が難しく、顧問を掛け持ちしている。廃部となる部活動については、部員が中学校3年生のみであり、1・2年生の入部がなかったためである。部活動によっては、土・日曜日に大会や合同チームでの練習のための遠征があり、顧問である教員は休みがない。文部科学省から部活動の地域移行が示され、来年度からは地域のクラブチームでも大会に出場できるようになる。今後は部活動の整理、合同チームの編成等を行い、子どもたちの希望を可能な限り実現させたいと思う。

(教育長)

学校の部活の創設及び廃部は、学校の判断になる。子どもの絶対数が減っており、各中学校では苦慮している。野球の伝統校もある銚子市の中学校でも単独チームが組めない状況である。ただし、子どもたちの意欲があれば、他校と合同チームを組んで大会に出場することが可能である。

部活動の地域移行についても研究していく必要がある。地域によって、指導者の確保や緊急時の対応、引率責任など条件が異なる。しかしながら、外部指導者の活躍の場は、これからも求められると思う。

(匝瑳城郭保存活用会)

文化遺構について、学校教育の場においてフィールドワーク、アクティブラーニング(※児童生徒、学生等の学習者が、受け身ではなく、自ら能動的に学びに向かうよう設計された教授・学習法のこと。)を取り入れてほしい。文化財に触れる、当時の空気に触れることは、シビルプライドの育成につながると思う。

放課後子ども教室及び児童クラブについて、匝瑳市は先進的な取組をしていると思うが、最近、入級できなかったとの話を保護者から聞いた。保護者も真剣に考えて預けたいと思っているので、入級できるよう配慮いただきたい。

キャリア教育については、少子化の中、地元根差した子どもたちの地域への思いが大事になってくると思うので、地元の企業や職種に積極的に関わっていけるよう配慮いただきたい。

協議概要

子どもたちの友人とのトラブルや不安定な要素への対応について、教員だけでは大変だと思う。市民も一緒に考えていかなければならないと思った。

(学校教育課長)

キャリア教育については、コロナ禍で2年間、中学2年生の職業体験ができなかったが、5月8日から5類に移行されるため、今後、予定通り実施できると考えている。また、中止していた期間は、各中学校においては、企業の方に来てもらい、雰囲気だけでも味わえるように工夫して取り組んでいた。

(匝瑳市国際交流協会)

他の方の話聞いて、先生方の負担が増えると思った。文化財のことも知らなかったが、発信力が必要だと思う。知っていれば、各家庭で展示場所等へ行くので、学校の負担にならないと思うし、地域も活性化する。親が興味を持ち、子どもも行くことが理想的だと思うから、学校に押し付けようとは思わない。

茨城県では、芸能人をうまく活用してPRをしている。費用もかからないと思うので、匝瑳市でもYouTubeでチャンネルを作って発信していくのはどうか。匝瑳市は発信が下手だと思う。個人が祇園祭等を紹介しているが、市が発信することで地域が変わると思う。

(企画課長)

発信について、地域おこし協力隊の採用等で取り組んでおり、今後さらに発信力をあげていきたい。

○生涯学習・生涯スポーツの推進について

(匝瑳市野栄文化会)

当会には29団体、285名が登録しており、のさかアリーナ、生涯学習センター、野栄総合支所を利用している。生涯学習センターについては、会員の高齢化に伴い、2階にあがるのが大変である。エレベーターがある支所は夜間の開館をしていない。生涯学習センターやのさかアリーナのホールはLED照明が入っているのが明るい、演者が使うステージ上は暗い。スポットライトを業者から借りている。良い施設があるのに、電球などの消耗品は費用がかかるので、全て取り換えることができない。

管理の問題もあると思うが、野栄総合支所の2階ホールが夜間に使えるとありがたい。文化団体を残していくためには、高齢者が長く活動できるよう工夫しているが、市からも助成や知恵をもらえるとありがたい。

(匝瑳市八日市場文化会)

野栄総合支所2階の小ホールについては、自分がのさか図書館長をしていたときは夜間利用ができた。週1回など利用日が決まっていたため、午後9時までの図書館の運営を、シルバー人材センターに委託していた。支所を改修した際に、音響や照明はそれなりの設備を導入している。電球交換等の補修はあると思うが、団体の希望を取って、シルバー人材センターへ管理を委託すれば、少ない経費で効率的に使えると思う。

協議概要

また、高齢者の利用について話があったが、支所はエレベーターがあって、そんなに電気代もかからないと思うので、団体や利用者と市がコミュニケーションをとって、高齢者にも有効活用してもらうのも一つの手ではないか。利用できていないのはもったいないと思う。参考までに取り入れてもらえればと思う。

○その他まちづくりに関することについて

(飯倉駅前地区まちづくり協議会)

飯倉駅周辺をにぎやかにするため、社会福祉法人九十九里ホームが主体となり、当市へ移住してくれるような高齢者のための住宅、子どもたちのためのこども園等を整備してきた。少し人口は増えたと思う。どこの自治体も努力しているが、周囲と同じ程度の努力では、それまでとなってしまう。他の自治体よりも多くの努力を、長い期間で考え、継続してやるのが大事だと思う。このような集まりも今後も必要だと思う。

(匝瑳市社会教育委員会議議長・そうさ市子ども会育成連絡協議会)

子ども会に関して、昨年8月に旭市と合同でキャンプを実施した。コロナの影響で匝瑳市は宿泊不可のために日帰りで2日行くことになり、余計にバス代を支出した。旭市は宿泊可能であったため、行政ですり合わせを行ってほしい。

また、コロナ前まで、八日市場小学校の3年生が松山神社の神楽を見学していた。文化財の校外学習を全くやっていないわけではない。

(八日市場青年会議所)

以前は、観光大使として地井武男さんがいたが、現在、観光大使はいるのか。

(企画課長)

現在、観光大使はいない。

(八日市場青年会議所)

いない理由を教えてください。

(企画課長)

「観光大使のポジションがあるから誰か任命する」のではなく、たまたま地井武男さんがいらっしやったので、観光大使をお願いしていた。常に誰かにお願いをしているものではない。

(教育長)

先ほどの匝瑳市と旭市間で宿泊の可否が異なるかという発言について、当時はコロナの感染力が強く、子どもたちの安全を最優先に考えた結果である。

(八日市場ライオンズクラブ)

「PRのためのPR」が足りないと思う。SNSは小さなことでも全国にPRできる。近隣でもしている。移住を考えている人も、匝瑳市の移住施策について発信がされていないために他の市へ行ってしまふ。どれだけ匝瑳市をPRできるのかは、拡散させていくことが手だと思う。誰でも動向が見れる施策ができればと思う。

(匝瑳市国際交流協会)

協議概要

移住・定住は、「誰を対象にしたいのか」が重要だと思う。若い人を対象にするならば、対象に合わせた政策があると思う。政策が漠然としていて、誰を集めたいのかわからない。人口が増えれば、消費が増えて活性化する。他と違ったアプローチで、シルバー世代を集めるとか、どこの自治体もしてないが何か発展につながるかもしれない。

(匝瑳城郭保存活用会)

2月5日に、観光庁補助事業により、東庄町・旭市・匝瑳市でモニターツアーを実施した。匝瑳市への参加者20名のうち、3名が市内在住者、他が首都圏からの参加者であった。椿の海を中心に市内をツアーした。参加者からは、「歴史と文化にあふれ、それが一つの資源になる」という意見も頂いた。今後波及するための布石になったと思う。

(匝瑳市文化財審議会)

そのようなツアーがあるのであれば、文化財の施設に行って、見学する計画もあってよいと思う。

(匝瑳城郭保存活用会)

先日行った公民館祭りは熱気があった。市民に親しまれている催しなので、無くさずに拡大する方向でお願いしたい。近隣と比べて、サブカルチャーという点で文化活動が少ない。タレントや歌手を招いたり、講演会を開いたりしている。生涯学習課に、専任職員を1人置き、文化財審議会や生涯学習関連団体とやりとりする中で、様々なことを計画していただきたい。

青少年相談員の身分は、千葉県の特別職になっているが、市ではどのような役職なのか。市の特別職の名簿にないが、業務も多く、重要な役職だと思う。市での身分について検討していただきたい。

文化の振興について、国でも文化財の活用について示されているようだが、市でも計画を立てていく必要があると思う。

市民のアンケート等を基に、男女共同参画の進捗について判断しているのか。

(企画課長)

アンケートはもちろん、審議会の構成役員の比率等を参考にしている。

(匝瑳城郭保存活用会)

醸成できるように、長い目で見ていただきたい。

(匝瑳市八日市場文化会)

飯高檀林跡の境内は、50年くらい前に飯高檀林を守る会ができ、綺麗に管理されている。飯高地区のボランティアのみで活動しているのか。

(史跡飯高檀林跡を守る会)

私たちは、環境保全のため活動している。飯高地区の住民や飯高特別支援学校の生徒にも協力していただいている。以前は映画撮影の反響で、全国からロケ地めぐりのお客さんが訪れていた。現在は減っているが、昨年も2作品ほど撮影があった。

以前には飯高小学校が、現在では八日市場小学校が引き継いだ「みどりの少年団」

協議概要

が活動してくれている。

(匝瑳城郭保存活用会)

地域文化の振興のための予算は、一律なのか。

(生涯学習課長)

団体によって額は異なる。

(匝瑳城郭保存活用会)

地域の観光において、飯高檀林跡は重要なところだなので、加味していただきたい。観光大使や発信についても検討していただきたい。また、団体と市民との温度差があっても、行政が間に入って繋いでいただきたい。

公共施設の跡地利活用について、旧匝瑳小学校が良い状態で残っているが、早期に市民への開放も含めて検討してほしい。民間活用が一番良いが、地域での活用の声もあるので、検討していただきたい。

以 上